

### 3章

## 支援団体の概要

### 1 支援団体の概要

本年度は、以下の8団体を支援した。団体の概要を以下に整理する。

No	1	2
団体名	佐波川の森を守る木造建築研究会	会津流域林業活性化センター
支援コース	木材利用活性化の組織・人づくり 木材利用の普及・啓発活動	地域産業の循環を前提とした非住宅木造建築物等の建築 木材利用活性化の組織・人づくり 木材利用の普及・啓発活動
支援概要	地域材活用へ向けて、木材利用による効果や木質材利用に関する知見を広げるための普及・啓発支援	会津若松地方森林組合事務所建設へ向けた設計者選定プロポーザル実施のための支援
支援成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木材利用の二刀流効果</li> <li>・木材の乾燥 Q&amp;A</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロポーザル公募要領</li> <li>・プロポーザル審査採点表</li> <li>・プロポーザル応募案審査項目概要表</li> <li>・設計者選定プロポーザルの取り組みPR資料</li> </ul>
利用木材	県産材	会津産材・県産材

No	3	4
団体名	(仮称) みやざき木の建築推進協議会	滋賀県琵琶湖環境部びわ湖材流通推進課
支援コース	木材利用活性化の組織・人づくり 木材利用の普及・啓発活動	木材利用活性化の組織・人づくり
支援概要	協議会設立へ向けた準備と県産材部材リストの作成支援	協議会設立の設立準備と設立後の取組内容等の情報共有支援
支援成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称) みやざき木の建築推進協議会 設立趣意書 (案)</li> <li>・(仮称) みやざき木の建築推進協議会 規約 (案)</li> <li>・協議会における活動内容シート</li> <li>・WG別ロードマップ (案)</li> <li>・協議会設立に向けたスケジュール</li> <li>・県産材部材リストの目的・対象・活用方法</li> <li>・県産材部材リストの調査票 (案)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称) びわ湖材建築推進協議会 規約 (案)、設立趣意書 (案)、設立までの流れ (案)、賛同者および団体一覧 (案)</li> <li>・協議会設立後の活動計画 (案)</li> </ul>
利用木材	県産材	県産材

## ❖ 支援団体概要

No	5	6
団体名	北鹿地域林業成長産業化協議会	Yamanashiウッド・チェンジ・ネットワーク
支援コース	木材利用活性化の組織・人づくり 木材利用の普及・啓発活動	木材利用活性化の組織・人づくり 木材利用の普及・啓発活動
支援概要	情報共有の場づくりによる課題抽出・木材コーディネート組織づくりのための準備支援	県産材を活用した木造化・木質化を民間建築物等へ普及するためのアンケート実施支援
支援成果	・課題・改善策一覧資料 ・PRパンフレット案「北鹿地域の木で建てよう！非住宅建築物の木造化・木質化」	・木造建築に関するアンケート及びアンケート結果
利用木材	市産材・県産材	県産材

No	7	8
団体名	西山杉利活用推進コンソーシアム	合同会社石巻エリアマネジメント
支援コース	木材利用活性化の組織・人づくり	木材利用活性化の組織・人づくり
支援概要	中大規模施設の木造化・木質化を促進するための地域連携による木材調達に関する課題整理支援	地域連携による木材調達体制づくりの支援
支援成果	・中大規模建築における西山杉利活用推進に向けた取り組み方針について	・取り組みワークショップの情報共有資料
利用木材	地域材（西山杉）	県産材・国産材

非住宅木造建築物技術普及支援委員会において、次の8団体の支援を決定した。



採択団体の所在地の分布

## 2 ワークショップの開催実績

支援団体	開催日	支援内容	コンサル
佐波川の森を守る木造建築研究会	11/27	事務所・学校・住宅における木材利用の二刀流効果 講師：伊香賀 俊治（慶應義塾大学理工学部 教授）	市浦ハウジング &プランニング
	11/29	材料の供給者から材料供給のポイント説明 講師：臺野 昭男（大林産業） 加工担当から加工の概略説明 講師：秋山 泰三（防秋産業）	
	01/23	変化する木造・進化する木材乾燥技術 講師：藤本 登留（九州大学大学院農学研究員 准教授）	
会津流域林業活性化センター	10/03	新事務所建設へ向けた木材調達会議情報と事例紹介 講師：北瀬 幹哉（環デザイン舎 代表）	環デザイン舎
	10/25	先進事例より木造化・木質化とプロポーザルの方法を学ぶ 講師：清水 安治（高島市森林組合・エーゼログループ）	
	01/18	プロポーザル方式による設計者選定の留意点 講師：吉田 博之（山形工科短期大学校 教授）	
（仮称）みやざき木の建築推進協議会	11/17	非住宅木造建築物づくりを学び、宮崎の課題整理 講師：大倉 靖彦（アルセッド建築研究所 代表取締役副所長）	アルセッド 建築研究所
	12/19	広島県における協議会の取り組み事例紹介 講師：柴田 安章（ひろしま木造建築協議会 理事（前会長））	
	01/16	協議会設立に向けた方針づくり 講師：大倉 靖彦（アルセッド建築研究所 代表取締役副所長）	
滋賀県 琵琶湖環境部びわ湖材流通推進課	10/18	協議会設立に必要な決定事項の協議 講師：安田 哲也（サウンドウッズ 代表理事）	サウンド ウッズ
	11/22	福岡の木で実現する木造三階建事務所ビル普及に向けた PR 方法 講師：秋山 篤史（福岡県木材利用促進協議会 理事・事務局長）	
	01/18	木の建築、これまでの10年とこれからの10年 講師：安井 昇（桜設計集団一級建築士事務所 代表）	
北鹿地域林業成長産業化協議会	10/17	全国の木造化木質化情報・組織づくり等紹介 講師：北瀬 幹哉（環デザイン舎 代表）	アルセッド 建築研究所
	11/22	杉戸町の木造化の取組から木造化の手法やコストコントロールを学ぶ 講師：渡辺 景己（埼玉県杉戸町建築課 主幹）	
	01/12	地域でつくる木造建築のつくり方を学ぶ 講師：武田 光史（アルセッド建築研究所 主幹）	
Yamanashi ウッド・チェンジ・ネットワーク	10/12	チラシ及びアンケート案について 講師：加来 照彦（現代計画研究所 代表取締役）	現代計画研究所
	12/15	木造・木質化に踏み込めない具体的な理由についての検討会 講師：加来 照彦（現代計画研究所 代表取締役）	
	01/18	木造・木質化に踏み込めない具体的な理由とその解決に向けた検討会 講師：加来 照彦（現代計画研究所 代表取締役）	

支援団体	開催日	支援内容	コンサル
西山杉利活用推進コンソーシアム	10/26	中大規模木造建築推進の基本戦略と課題 講師：鈴木 進（木の家だいすきの会 代表理事）	木の家 だいすきの会
	12/21	鶴岡市の森林整備構想と木材の分離発注の仕組み 講師：後藤 章子（鶴岡市教育委員会管理施設係 専門員）	
	01/15	西川町と山形市の事例研究 講師：鈴木 進（木の家だいすきの会 代表理事）	
合同会社石巻エリアマネジメント	10/27	地域連携による木材調達 講師：鈴木 進（木の家だいすきの会 代表理事）	木の家 だいすきの会
	01/23	木材の分離発注における工事工程と木材生産の実務面の調整方法 講師：後藤 章子（鶴岡市教育委員会管理施設係 専門員）	
	01/30	石巻地域における中大規模木造建築の木材調達の事例報告 講師：鈴木 進（木の家だいすきの会 代表理事）	

採択団体への支援実績

## 4章

# 支援団体別成果報告

### 1 佐波川の森を守る木造建築研究会

#### 1) 地域支援概要

No	1
団体名	佐波川の森を守る木造建築研究会
支援コース	木材利用活性化の組織・人づくり 木材利用の普及・啓発活動
支援概要	地域材活用へ向けて、木材利用による効果や木質材利用に関する知見を広げるための普及・啓発支援
成果物	・木材利用の二刀流効果 ・木材の乾燥 Q&A

#### 2) 支援関係者概要

行政関係	山口県農林水産部ぶちうまやまぐち推進課、森林企画課、農林水産事務所森林部
木材関係	木材事業者
設計関係	設計事務所
施工関係	建設会社

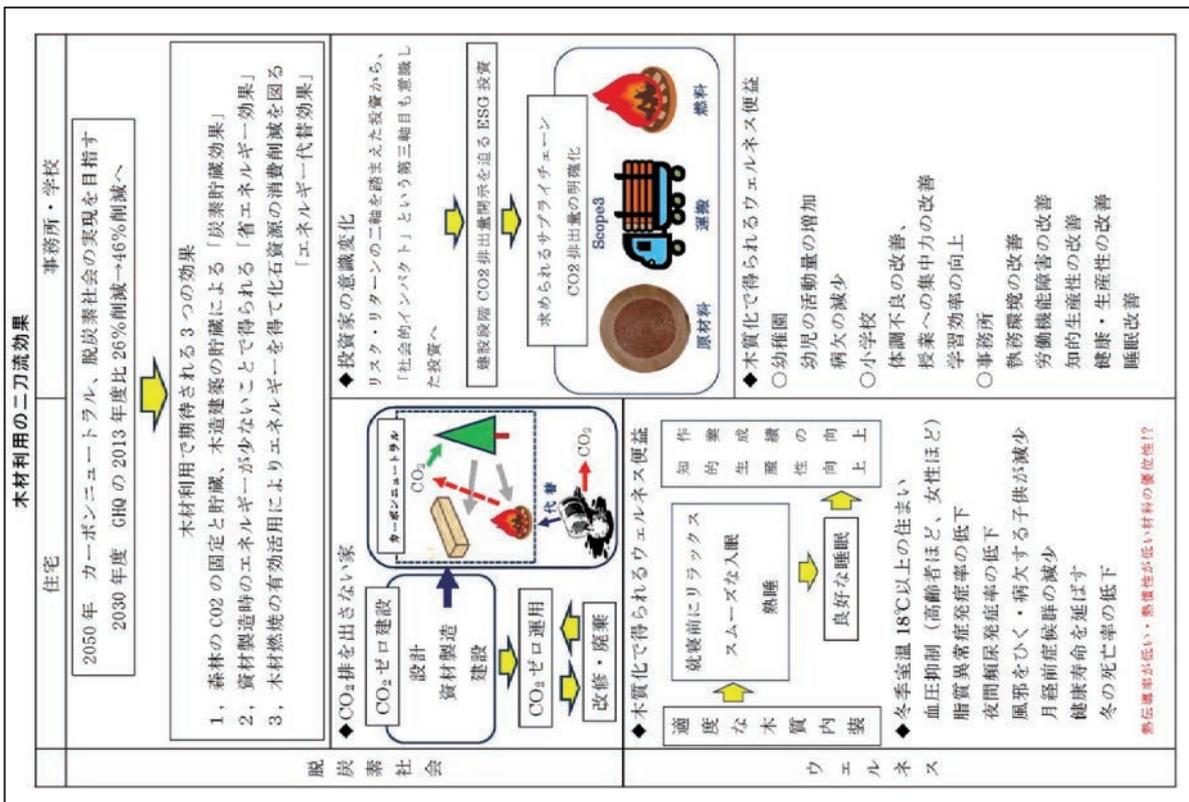
#### 3) 地域における木造化・木質化の現状と課題

- ・山口県内には、他県で見られるような県の林産系の試験施設がなく、大学においても林産系の専門分野はない。そのため木質材料の専門的知識を有し、木材関連企業に技術的な指導ができる技術者はいない。また大学に建築系の学部はあるが、現在、木材や木造建築に精通した研究者はいない。
- ・「木材利用術」に関する最新の技術や正しい情報を、専門家から直接得られる機会に恵まれていない状況にある。

#### 4) 支援成果

- ・木材利用術習得のために3回の検討会を実施した。木材利用による環境効果や木材構造試験、県内木材加工の実情への理解、木質材料に関する幅広い知識・経験を得られた。
- ・木材利用がもたらす「脱炭素社会実現」や人間環境の「ウェルネス向上」に向けた効果を学んだ。これにより参加者は、発注者や利用者等に対して、木材利用効果について自信を持って説明できる知見を得た。学んだ内容を研究会ブログにて情報公開した。
- ・試験体の曲げ破壊試験講座や木材乾燥講座による知識習得ができた。これらの内容を研究会ブログへ公開した。また、検討会の内容をノウハウ資料として表とQ&A形式で整理した。

木材の乾燥 Q&A	
質疑	回答
未乾燥の木材が乾燥すると、どうなりますか。	木材には、水槽内の水と同じような状態で動ける自由水と細胞壁の壁物質と化学結合して存在する結合水があります。木材が乾燥するとまず自由水が抜け、その後、結合水が抜けます。結合水が最大に含み得る場合の含水率は28~30%で、これを繊維飽和点といいます。繊維飽和点以上であるならば、含水率の変化に伴う寸法変化は発生しませんが、繊維飽和点を下回ると収縮がおこります。
未乾燥の木材を構造上主要な材料に使うと、建物の利用時、どのような不具合がおこる可能性がありますか。	次のようなことがおこる可能性があります。 ① 部材が収縮し、材料間に隙間ができる。 ② 柱の変形により、仕上げ材に隙間ができる。 ③ 仕上げ材にカビが発生する。 ④ 木材表面上に割れが発生する。等
適切に乾燥した木材を使うと、建物の利用時、どのようなメリットを得られますか。	次のようなメリットが期待されます。 ① 部材の寸法が安定する。 ② 割れが発生しにくくなる。 ③ 強度性能が向上する。 ④ 耐久性、耐腐性、対腐性が向上する。
適切に乾燥した木材を使うと、加工・施工の際、どのようなメリットを得られますか。	次のようなメリットが期待されます。 ① 防錆薬剤等注入性が向上する。 ② 重量が低下するため、材料の取り扱いが容易くなる。 ③ 寸法精度・加工組み立ての精度が向上する。 ④ 塗装性が向上する。
木材はどうして変形するのでしょうか。	製材したとき、製材品が変形することがあります。これは樹木の成長に伴って幹内に発生する応力を成長応力といい、製材すると、この応力が開放されることで起こる現象です。 一方、木材には異方性という特徴があり、左下図に示す接線方向、放射方向、横断方向で、乾燥時の収縮率が異なるため、右下図のように乾燥の過程で木材に変形が生じます。



## 2 会津流域林業活性化センター

### 1) 地域支援概要

No	2
団体名	会津流域林業活性化センター
支援コース	地域産業の循環を前提とした非住宅木造建築物等の建築 木材利用活性化の組織・人づくり 木材利用の普及・啓発活動
支援概要	会津若松地方森林組合事務所建設へ向けた設計者選定プロポーザル実施のための支援
成果物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロポーザル公募要領</li> <li>・プロポーザル審査採点表</li> <li>・プロポーザル応募案審査項目概要表</li> <li>・設計者選定プロポーザルの取り組みPR資料</li> </ul>

### 2) 支援関係者概要

行政関係	福島県会津農林事務所森林林業部
設計者関係	—
木材供給関係	会津若松地方森林組合、会津管内の製材協同組合
施工関係	—

### 3) 地域における木造化・木質化の現状と課題

- ・木造建築（設計）の基礎知識、木材活用・調達（発注）方法等、地域内における木材供給状況を踏まえながら、効率的な木造建築の推進が必要である。そのため、各市町村等における木造建築の企画案件の掘り起こしと支援が必要である。
- ・企画案件を探したところ、会津若松地方森林組合において事務所棟と倉庫を建替える計画が見つかった。事業計画から、設計者選定プロポーザル実施へ向けた支援が必要となった。
- ・森林組合では、事務所の木造化へ向けた知識や経験が少ないため、木造化が可能かどうかの判断及び木造化するために必要な情報やノウハウを支援する必要があることが分かった。

### 4) 支援成果

- ・当初、集成材で建設された建物を参考にしていましたが、本支援の情報提供により、会津産の製材を活用した木造建築とする方針とし、設計者選定プロポーザルを実施することになった。
- ・木材調達会議を開催することで、製材発注の時期などを見通すことができ、施設建設への不安を軽減することができた。また、設計者選定後に相談がしやすくなった。
- ・設計案ではなく設計者を選ぶことの重要性、募集要領でコンセプトや要望を明確に伝えること、審査基準を明確にして点数で選定することを、先進事例から学ぶことができた。
- ・支援プロセスを経ることで発注関係者が木造化を学ぶことへつながった。結果的に、設計者選定の視点を養うことにつながり、設計者へ要望を明確に伝えられるようになった。

❖ 会津流域林業活性化センター

項目	内容	基準 配点	採点係数				採点数	備考
			A	B	C	?		
1. 目的やコンセプトの理解	要領に記載している目的やコンセプトを理解した提案か。	15	良好	普通	不十分	不可		
2. 機能性・安全性等への配慮	1-1. 機能的なオフィス環境の確保：プランニングを評価する	10	良好	普通	不十分	不可		
	1-2. 耐火性能、耐震性能、防犯性能、セキュリティ機能、ユニバーサルデザインへ配慮した計画が行われている。	5	良好	普通	不十分	不可		
	1-3. 維持管理で経済性に優れた機能：維持管理費低減提案の有無	10	良好	普通	不十分	不可		
3. 環境への配慮	2-1. 自然エネルギー利用：省エネ性能確保の提案の有無	5	良好	普通	不十分	不可		
4. 木材の利用	3-1. 会津産材の活用提案の有無	10	良好	普通	不十分	不可		
	3-1. 県産材・国産材の活用提案の有無	5	良好	普通	不十分	不可		
	3-2・3. 地域の木工技術の活用/新工法・新技術・新素材等の活用	5	良好	普通	不十分	不可		
5. 概算工事費	事業予算内になっているか	10	良好	普通	不十分	不可		
6. 基本条件	構造・面積・室数・屋外施設は要件を満たしているか	5	良好	普通	不十分	不可		
7. 設計監理費	見合った内容になっているか	5	良好	普通	不十分	不可		
8. 取り組み意欲	提案内容全体を通して実現向け意欲を感じる提案か	5	良好	普通	不十分	不可		
9. ヒアリングの対応力	ヒアリングの説明や質疑回答対応力はどうか	10	良好	普通	不十分	不可		
合計		100						

プロポーザル審査採点表

## 会津の木で建てよう・選ぼう

2023年度版

### 設計者選定プロポーザルの紹介

#### 会津産の製材で建てられます

木造建築といえば住宅が一般的ですが、近年は非住宅の店舗や事務所、福祉施設等の建物も木造で建てられることが増えてきました。木材の安心の良さや環境への貢献があります。会津の製材で建ててみませんか？

#### 設計者を選ぶプロポーザル

非住宅建築を木造で建てる場合は、木材や木造建築の実績があり、意欲のある建築設計者を選ぶことがおすすめです。設計者を選ぶ方法としてプロポーザル方式があります。建てない建物の要件を提示し、建築物や考え方を提示してもらいます。裏面ヒアリングを行う場合もあります。業とヒアリングから設計者の「人」をみて、仕事を依頼できる人を選びます。

---

### 会津材で建築するための設計者選定プロポーザル方式の紹介

設計者選定プロポーザル方式は、複数の応募者の中から依頼したい設計者を選べるメリットがあります。どこかの設計者に依頼しようか悩んでいる場合、もしくは設計できる設計者を探したい場合に有効な方法です。

設計者選定プロポーザル方式に取り組むには準備は必要ですが、取組を通して考え方を整理し、意欲的な設計者に会えるメリットがあります。建築を企画している際には、ぜひプロポーザル方式をご検討ください。

**建築企画**

建物を建てるという企画・計画段階で、木造のできる設計者を選ぼうとなった場合、以下の設計者選定プロポーザルのプロセスが必要になります。プロセスサポートも可能です。

**方針整理**

計画建物の概要やどのような建物をつくりたいか、会津の木を使いたいなどの要望を整理します。要望整理したものを建築設計者とします。

**公募要領づくり**

設計者を募集し設計要件等を伝える公募要領づくりを行います。建築方針を記載し、提出してほしい図面や文章、実績等の書類を提示します。

**参加者の募集**

公募要領をホームページ等へ掲載し設計者選定プロポーザルの募集を行います。建物規模によりますが約1ヵ月間募集し、提案を約1ヵ月後に提出してもらいます。

**審査会・選定**

提案内容の書類審査のみの場合もありますが、書類設計者とヒアリングを行い審査します。家の説明等に質問し、提案者の能力や意欲等を審査し選定へ。

設計者選定プロポーザルのノウハウがあります。サポート可能です。詳しくは裏面へ▶

## 会津若松地方森林組合本所建設 設計プロポーザルの取り組み事例紹介

**建築企画**

森林組合事務所は、平成23年に発生した東日本大震災の影響を受けた状況の中、築50年を超え老朽化が進んでいました。このような課題を解消し、業務の合理化や経費削減、併せて地域林業の拠点施設の設置を目的とした本所を木造で建設することになりました。

**方針整理**

森林組合では、木造化に先駆けて会津林業活性化センター及びびん野庁補助事業による支援を受けました。組合事務所を製材木造で建設可能なことなどを先進事例から学びました。そこから会津材で建設する方針整理、設計者選定プロポーザルの実施を決定しました。

---

**木材会議**

森林組合が原木丸太を搬出し、建物へ使えるのか？会津地域の木造建築はどのように建てられたのか？疑問を解消するために、会津地域の木材・製材組合との木材調達会議を実施しました。原木から製材する方法や設計者選定時の留意点を確認することができ、事務所木造化への意欲が高まりました。

**先進事例**

道真県林業会館は規模が同等で地域での製材によって建設された先進事例。町家で建てられた山形県白根町木造庁舎。両方の関係者を講師として招き、プロポーザルの実施方法や木造化の留意点を学びました。先進事例からは、プロポーザルは設計案ではなく「人」を選ぶことを学べた点が大きかったです。

---

**募集選定**

森林組合のHPで設計者選定プロポーザルを告知し参加者を募集。最終的には7社の応募があり、書類審査とヒアリング審査を行いました。最終的には、会津材活用に意欲的で、組合と意欲に対応して、会津材を活用した建築づくりを一緒に取り組める設計事務所（人）の選定につながりました。

**設計者選定プロポーザルに取り組み**

森林組合関係者より  
「森林組合を使うには集材材でしかつけれないと思込んでいた。先進事例等の学びから製材で建設できることが分かりやすかった。」

建築設計については重人だったので、公募要領づくりや審査基準をまとめる際にはサポートがありました。

---

**会津産材相談窓口**

会津産材+木造建築への利用のことなどお気軽に相談下さい

**お問い合わせ先：会津流域林業活性化センター（事務局）**

〒966-0901  
 喜多方市松山町鳥見山下天神6番地3 福島県喜多方合同庁舎3F  
 TEL/FAX: 0241-21-8115 E-mail: amrc@vivilin.ocn.ne.jp

設計者選定プロポーザルの取り組み PR 資料

### 3 (仮称) みやざき木の建築推進協議会

#### 1) 地域支援概要

No	3
団体名	(仮称) みやざき木の建築推進協議会
支援コース	木材利用活性化の組織・人づくり
支援概要	協議会設立へ向けた準備と県産材部材リストの作成支援 木材利用の普及・啓発活動
成果物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (仮称) みやざき木の建築推進協議会 設立趣意書 (案)</li> <li>・ (仮称) みやざき木の建築推進協議会 規約 (案)</li> <li>・ 協議会における活動内容シート</li> <li>・ WG別ロードマップ (案)</li> <li>・ 協議会設立に向けたスケジュール</li> <li>・ 県産材部材リストの目的・対象・活用方法</li> <li>・ 県産材部材リストの調査票 (案)</li> </ul>

#### 2) 支援関係者概要

行政関係	宮崎県山村・木材振興課、みやざき杉活用推進室、木材利用技術センター
木材関係	宮崎県森林組合連合、宮崎県造林素材生産事業協同組合連合会、宮崎県木材協同組合連合会
設計関係	宮崎県建築士事務所協会、宮崎県建築設士会、JIA 九州支部宮崎地域会、JASCA九州支部宮崎地区、宮材検設備設計事務所協会
その他	施工会社

#### 3) 地域における木造化・木質化の現状と課題

- ・ 宮崎県はスギの素材生産量が日本一であり、地産外消型の木材産業が確立している。そのため、地域材を活用した非住宅木造建築を実現するための県内木材関係者の連携体制の構築が遅れていた。そこで、宮崎県では、非住宅分野の木材利用推進のため「みやざき木造塾」を開催し、「民間建築物木造化・木質化促進検討会」を設置、「みやざきの木造化・木質化相談窓口」を運営してきた。
- ・ 一方、県内で非住宅木造建築を推進するための、川上・川中・川下の連携体制については、県内事業者の意向の汲み取りや束ね方（まとめ方）等の具体的な対応が課題だった。
- ・ 県内での非住宅木造建築の実績や経験が少ない。また、県民に木造化・木質化をアピールできる機会が少なく、理解が得られていなかった。

#### 4) 支援成果

- ・ 宮崎県内の木造建築に関わる設計・施工・木材事業者及び行政が集い、県外専門家の視点も加え、議論を重ねることで、多くの課題を整理することができた。
- ・ WSを通して明らかとなった課題を解決するための活動内容を整理し、協議会と3つのワーキングにより次年度から具体的な活動を行っていく体制ができた。令和6年8月の協議会設立までのスケジュール（案）が合意できた。協議会設立に必要な設立趣意書・規約・活動内容・ロードマップの案ができた。
- ・ 県産材普及に向けた県産材部材リスト作成の目的、活用方法、調査票（案）を検討した。

❖ (仮称) みやざき木の建築推進協議会

非住宅木造推進の課題と協議会での活動内容(案)		協賛数が多い内容
テーマ	内容	重要度 達成 合計
用上一川下の課題	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	1
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	2
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	3
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	4
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	5
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	6
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	7
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	8
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	9
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	10
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	11
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	12
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	13
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	14
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	15
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	16
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	17
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	18
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	19
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	20
川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	川上・川中・川下の交流が少ない、連携が不足している	21

協議会における活動内容シート

協議会設立までのスケジュール									
	12月	1月	2月	3月	4月	5月、6月	7月、8月	9月～	令和7年度
支援事業	WS② ・活動内容の検討 ・準備部会立上げ	WS③ ・活動順序の検討 ・運営方針等の素案の確認						(WS④) ※県独自開催	
準備部会		① 運営方針、規約の検討	② 規約、各WGの確認 ・設立までのスケジュール確認	③ 関係団体との調整(規約、運営方針等の確認) ↓ 意見交換、方針確認	・各団体へ説明、依頼 ・個人へ周知	(各団体年次総会)	①※ 最終調整、総会準備		
協議会							設立総会(事務局：センター)	取組開始	事務局：民間移行(予定)

※WS④について、支援事業欄に記載していますが、(支援事業期間前のため)県独自の開催を検討しています  
 ※準備部会欄の丸囲みの数字(①、①等)について、R5年度実施分を黒、R6年度実施分を白、としています

協議会設立に向けたスケジュール

#### 4 滋賀県琵琶湖環境部びわ湖材流通推進課

##### 1) 地域支援概要

No	4
団体名	滋賀県琵琶湖環境部びわ湖材流通推進課
支援コース	木材利用活性化の組織・人づくり
支援概要	協議会設立の設立準備と設立後の取組内容等の情報共有支援
成果物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮)びわ湖材建築推進協議会 規約(案)、設立趣意書(案)、設立までの流れ(案)、賛同者および団体一覧(案)</li> <li>・協議会設立後の活動計画(案)</li> </ul>

##### 2) 支援関係者概要

行政関係	滋賀県琵琶湖環境部びわ湖材流通推進課、滋賀県西部・南部森林整備事務所
設計者関係	設計事務所
木材供給関係	高島市森林組合
施工関係	建設会社

##### 3) 地域における木造化・木質化の現状と課題

- ・滋賀県では、非住宅木造建築の県内需要がほとんどないため、県内だけではなく、隣接県等も含めた新たな木造プロジェクトの創出が求められている。そのためには、建築士と木材供給事業者が明確な目的を共有し、取り組めるような協議会が必要と考えられた。
- ・「滋賀県木造建築セミナー」受講者の活動の場としての(仮称)びわ湖材建築推進協議会設立へ向けて具体的な取り組みの支援が求められた。協議会の役割の明確化や構成候補者や団体等の確定、会の運営の枠組みの整理、今後の取り組み工程などの検討が必要とされた。

##### 4) 支援成果

- ・「コアメンバー会」と「設立準備会」の2つの会議体を準備して、そのシミュレーションを行った。シミュレーションを通して、昨年度作成した規約(案)と設立趣意書(案)の内容を精査した。
- ・検討会を通して、協議会設立までの流れ(案)を整理し、令和6年度以降の活動計画案をまとめた。



## 5 北鹿地域林業成長産業化協議会

### 1) 地域支援概要

No	5
団体名	北鹿地域林業成長産業化協議会
支援コース	木材利用活性化の組織・人づくり 木材利用の普及・啓発活動
支援概要	情報共有の場づくりによる課題抽出・木材コーディネート組織づくりのための準備支援
成果物	・ 課題・改善策一覧資料 ・ PR パンフレット案「北鹿地域の木で建てよう！非住宅建築物の木造化・木質化」

### 2) 支援関係者概要

行政関係	大館市産業部林政課、都市計画課、小坂町観光産業課、鹿角市
設計者関係	設計事務所
木材供給関係	製材所、木材事業者
施工関係	—

### 3) 地域における木造化・木質化の現状と課題

- ・ 大館市・鹿角市・小坂町（以下、北鹿地域という。）ではこれまで公共施設の木造化・木質化を推進してきたが、木材利用はコストが高いというイメージがネックとなっている。
- ・ 協議会ではこれまで「林業成長産業化地域創出モデル事業」において、「地産外商型」の地域材流通・利用に取り組んできた。今後は、「地産地消型」の地域材流通・利用を推進するため、関係者間での情報共有のあり方や、板材を中心とした木材供給地域に相応しい木造建築のあり方の検討が必要。また、非住宅の木造化・木質化に関する実施体制を構築すると同時に、木材調達に関するとりまとめ調整役（コーディネーター）の育成が求められている。

### 4) 支援成果

- ・ 川上、川中、川下の関係者から地域の木造化・木質化の現況報告や意見交換WSにより課題や改善点を抽出することができた。課題や改善点をまとめたことで、北鹿地域の特性把握や非住宅木造・木質化推進ワーキングで取り組むべき内容を整理できた。
- ・ 地域特性として、北鹿地域は、国内で珍しく近距離圏に製材・集成材工場が集積している地域であることが分かった。板材供給体制（ラミナ生産）を活用した中断面の集成材であれば製材と競合できる価格帯で加工・調達できるなどのメリットも確認できた。
- ・ 行政が企画案件を木造化するうえで相談先があることが望ましい。設計事務所、プレカット会社、製材所それぞれが企画段階での相談対応が可能であり、これらのネットワークが木材・木造コーディネート体制の母体になることを確認できた。



## 6 Yamanashi ウッド・チェンジ・ネットワーク

### 1) 地域支援概要

No	6
団体名	Yamanashi ウッド・チェンジ・ネットワーク
支援コース	木材利用活性化の組織・人づくり 木材利用の普及・啓発活動
支援概要	県産材を活用した木造化・木質化を民間建築物等へ普及するためのアンケート実施支援
成果物	・木造建築に関するアンケート及びアンケート結果

### 2) 支援関係者概要

行政関係	山梨県林政部林業振興課
木材関係	山梨県木材協会
設計関係	山梨県建築士事務所協会、山梨県建設業協会
その他	甲府商工会議所、富士吉田商工会議所、山梨県商工会連合会、山梨経済同友会

### 3) 地域における木造化・木質化の現状と課題

- ・本ネットワークは、これまでに発注者候補としての商工関係者向けセミナーや木材生産工場の見学会、小中規模木造設計者の育成などの活動を行ってきたが、セミナー等への商工関係者の参加は少なく、木造建築物の実現につながるなどの目に見えた成果は出ていない。
- ・本ネットワークは建築主となる商工関係団体の参加を得ているが、商工団体事務局の努力にも関わらず、加盟する企業の木造化・木質化への興味を引くまでには至っていない。建築・木材側が積極的に企業へアプローチしようにも、手段が確立できていないため、過去に立ち上げた木材協会の「木造・木質化相談室」による受動的な取り組みに留まっている。

### 4) 支援成果

- ・県産材を活用した木造化・木質化を民間建築物等へ普及するためのアンケートを実施した。
- ・アンケート結果からは、商工関係者の木材・木造への関心や取り組み姿勢が希薄であること、実際に取り組んだ企業や取り組もうとしている企業は、コストメリットより木材・木造の持つ環境性能や温かみなどを一番のメリットとして挙げていることが分かった。
- ・木造の不採用理由は、木造建築への認識不足によるものが多く、「設計・施工業者からの勧めがなかった」という回答が15件、「木造でできると知らなかった」という回答が7件だった。次に、性能面での不安として、耐火性が9件、耐久性が8件、耐震性が5件となった。
- ・木造の採用理由は、木材の温かみ等の木造の特徴をメリットと捉えている企業が21件と最も多く、それに鉄骨造と比較して工事費が安い8件、工期が短い5件だった。
- ・アンケートの実施により、新築の社屋等を木造で検討したい企業や、木材・木造について専門家の話を聞きたい企業を見つけることができた。



## 7 西山杉利活用推進コンソーシアム

### 1) 地域支援概要

No	7
団体名	西山杉利活用推進コンソーシアム
支援コース	木材利用活性化の組織・人づくり
支援概要	中大規模施設の木造化・木質化を促進するための地域連携による木材調達に関する課題整理支援
成果物	・中大規模建築における西山杉利活用推進に向けた取り組み方針について

### 2) 支援関係者概要

行政関係	山形県村山総合支庁森林整備課、市町村農林課
設計関係	—
木材関係	森林組合、木材市場、製材所
その他	—

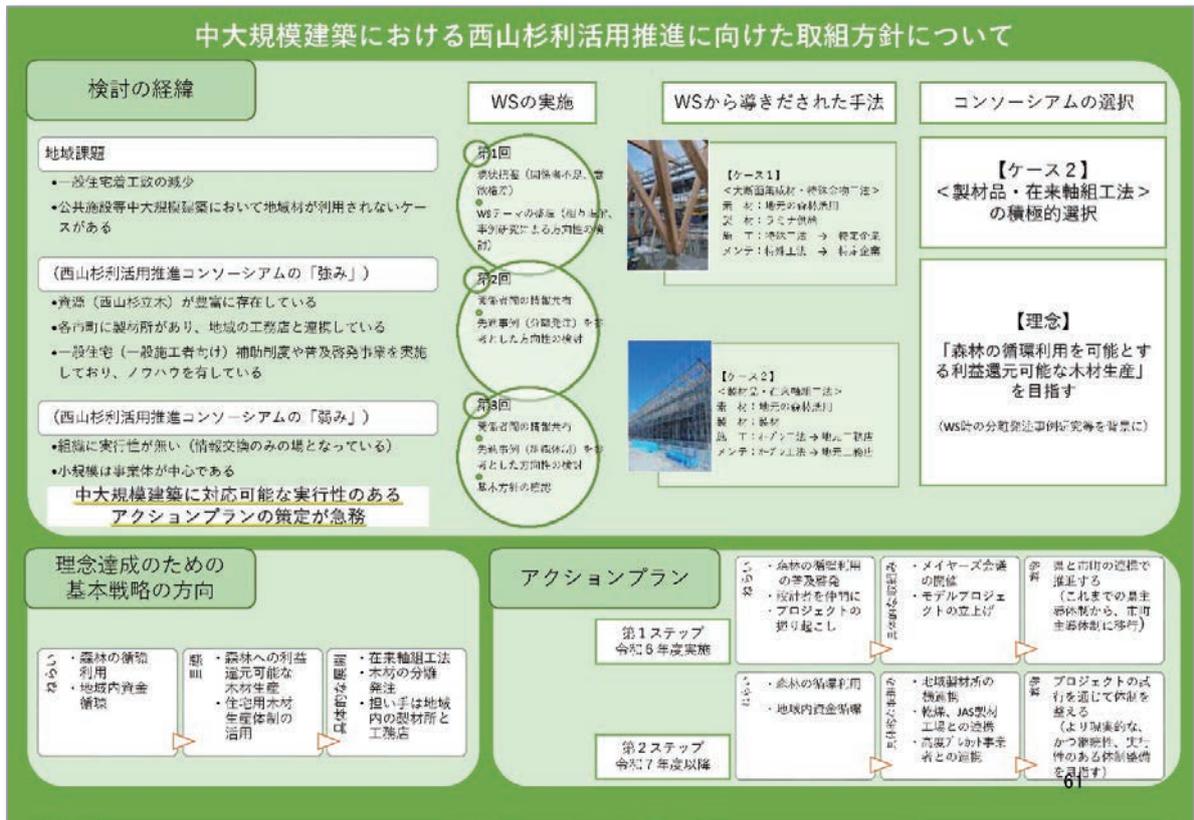
### 3) 地域における木造化・木質化の現状と課題

- ・西山杉利活用推進コンソーシアム（以下、コンソーシアムという。）は、「西山杉」の利活用を推進することを目的に設立された。住宅分野中心の取組みを進めてきたが、住宅着工戸数の減少により、中大規模木造建築分野への取組みが求められていた。しかし、活動方針や方向性をまとめきれていなかった。
- ・コンソーシアムは、山形県主導で組織されているため参加者が受け身であることやメンバーに設計者や施工者が少ないことなどが課題だった。
- ・中大規模木造建築を推進していくためには、地域の製材所が小規模で、地域内の1市4町の連携が弱いことも課題であった。

### 4) 支援成果

- ・コンソーシアムの推進体制づくりを行い、今後取り組むべき内容をまとめ、理念達成のための基本戦略の方向性と短中期で取り組むアクションプランが明確となった。中大規模木造建築推進へ向けて、「在来軸組工法」「木材の分離発注」「担い手は地域内の製材所と工務店」の3つの柱が確認された。
- ・令和6年度は、普及啓発活動、設計者や施工者との連携、プロジェクトの掘り起しを目指しメイヤーズ会議の開催やモデルプロジェクトの立ち上げを行う予定である。
- ・令和7年度は、森林の循環利用、地域内資金循環を目指し、地域製材所の連携や乾燥施設・JAS工場・プレカット会社との連携に向けた取り組み体制づくりを進める予定である。

❖ 西山杉利活用推進コンソーシアム



中大規模建築における西山杉利活用推進に向けた取り組み方針について

## 8 合同会社石巻エリアマネジメント

### 1) 地域支援概要

No	8
団体名	合同会社石巻エリアマネジメント
支援コース	木材利用活性化の組織・人づくり
支援概要	地域連携による木材調達体制づくりの支援
成果物	取り組みワークショップの情報共有資料

### 2) 支援関係者概要

行政関係	—
木材関係	森林組合、木材事業者、製材所
設計関係	設計事務所
施工関係	施工会社

### 3) 地域における木造化・木質化の現状と課題

- ・東日本大震災で大きな被害を受けた石巻市の中心市街地では、小規模連鎖型再開発（以下、小再開発という。）による復興が進んでいる。
- ・小再開発では、SDGs 実現に寄与すること、建築工事費が地域に落ちる構造をつくることを目指し、地域で調達可能な木材による木造建築を建設し、地域の工務店が工事を担う体制づくりを目指している。
- ・支援団体は、木造化に取り組む際に、コンストラクション・マネジメント（CM）の体制づくりを目指しているが、どのような体制づくりを行うべきかを検討する支援が求められた。

### 4) 支援成果

- ・木材調達に関する講座を経験することで、支援団体が目指す木材調達の方向性を整理することができた。大工技術を活かすために在来軸組工法を基本とし、コンストラクション・マネジメントの一環として木材の分離発注に関する留意事項、設計から施工までの木材調達のプロセスマネジメントの重要性等を共有した。また、木材調達ネットワークづくりへ向けて、仕組みづくりや改善すべき内容を整理した。

❖ 合同会社石巻エリアマネジメント

## 森林資源のカスケード利用と地域の大工技術で 耐火（準耐火）木造・ウェルネスタウンを実現

[木造とコンストラクション・マネジメントで小規模・連鎖型再開発を実現] ∞ [山を守る]

会場	見学・講演・討論	
<b>川上</b> 石巻地区森林組合	講演：木材調達体制づくりと地域連携（NPO木の 家だいきの会・鈴木進） 見学：高性能林業機械による素材生産	 
(株) 山大	講演：木材調達体制づくり：宮城県内木造建築の 事例（盛総合設計・栗原将光） 見学：JAS認定製材工場、乾燥施設、プレカット 工場	 
<b>川下</b> 石巻まちなか	講演：木材の分産発注における工事工程と木材生 産の実務面の調整方法（鶴岡市教育委員会管理課 施設係・後藤章子） 討論：+三井所清典+松留慎一郎+鈴木進	 

- ・川上、川中、川下のそれぞれのメンバーがネットワークを組み連携する仕組みを
- ・「設計→施工図→木材加工→プレカット→施工」というプロセスのマネジメントが重要
- ・コンストラクション・マネージャの適切なマネジメントが 耐火（準耐火）木造の工法を合理化し、工期、コストを短縮する

取り組みワークショップの情報共有資料